

東京都初記録・稀な記録の鳥たち — 7

(写真は裏表紙に掲載)

稀な記録 アカハジロ × ホシハジロ? *Aythya baeri* × *Aythya ferina*?

アカハジロに酷似していますが、アカハジロとホシハジロの交雑と考えられる個体が記録されました。

観察場所：文京区 小石川後楽園のほか、台東区 上野公園不忍池など

観察期間・発見者：2014年12月10日ころからネット等に掲載ようになりましたが、初認日・終認日と発見者については不明です。2015年1月中旬以降は観察されていません。

観察状況：日中は小石川後楽園でホシハジロの群れとともに観察されることが比較的多かったようですが、行方が分からないことが多く、上野不忍池などで確認されたこともあります。

解説：当個体については、頭部や胸部に光沢があり、腹部下面は純白であることなどから、すでに繁殖羽となった2齢目以上の雄成鳥と考えられます。しかしながら、(1)虹彩が黄色いこと、(2)上面および下面脇の褐色部に波状の細かい斑が認められること、(3)頭頂部に赤味があること、(4)下面の白色部が翼角に近くまで食い込んでないこと、などからホシハジロとの交雑が指摘されています。

(野鳥記録委員 三間久豊)

稀な記録 カラムクドリ *Sturnia sinensis*

東京付近(1889年)、北硫黄島(1935年)、大田区(年不明)、練馬区石神井公園(2005年)の記録があり、東京都では5度目の記録となりました。

観察場所：板橋区常盤台1丁目および板橋4丁目付近 石神井川

観察期間・発見者：2015年1月14日～27日頃・秋元理恵子氏、金山美ゆき氏

観察状況：1月14日に秋元理恵子氏が板橋区常盤台1丁目の石神井川にいた1羽を、自宅から観察し撮影しました。図鑑で調べて直ぐに“いたばし野鳥クラブ”会長の栗林菊夫氏に連絡し、駆けつけた同氏がカラムクドリを確認しました。また、発見日の14日の朝に、金山美ゆき氏も通勤時に板橋4丁目の石神井川で、同一と思われる個体を観察していたことも判りました。カラムクドリは石神井川沿いを移動していたようです。(秋元理恵子氏と金山美ゆき氏は“いたばし野鳥クラブ”会員とのことです。)

解説：本種は沖縄県南西諸島ではほぼ毎年少数が越冬していますが、本州以北では稀に記録される野鳥です。この個体は翼の雨覆部分が大きく白色であることから、雄成鳥と思われる。本記録の取りまとめに際し、発見者の方や発見の経緯をお知らせくださった栗林菊夫氏に感謝いたします。

(野鳥記録委員 大塚 豊)

稀な記録 コシャクシギ *Numenius minutus*

関東地方各地ではごく稀な記録があります。東京都での正式な記録は1933年10月22日の杉並区での記録以来で、2度目になると思われます。

観察場所：江戸川区臨海町 葛西海浜公園 西なぎさ

観察期間・発見者：2015年4月23日～4月26日・片岡 靖氏

観察状況：9時の開門で西なぎさに入りました。西なぎさ入口右側の草地にチュウシャクシギ、ムナグロがいて、双眼鏡で確認すると妙な鳥がいました。チュウシャクシギより小型で背筋よくスマートな体型、シギとしては長めだがチュウシャクシギよりは短い嘴、先端は軽く下に下がっておりコシャクシギと同定しました。警戒心が強くあまり近寄らせてくれませんでした。草地でしきりに地面を探り、エサを探している様子でした。小型なわりに気が強く、近づいたチュウシャクシギを追い払っていました。当時、野鳥カメラマンは一人もおらず。その後続々入ってくる人に驚いて空高く飛んで行ってしまいました。カメラを持っていなかったので、証拠写真は撮れませんでした。

解説：この個体は三列風切の模様などから成鳥と判定されます。コシヤクシギはその後、4月26日まで滞在し、月例葛西臨海公園探鳥会においても観察されました。4月23日が発見日と思われそうですが、もしそれ以前の観察記録がありましたらお知らせください。

(野鳥記録委員 鈴木弘行)

稀な記録 オオチドリ *Charadrius veredus*

東京湾の埋立地でオオチドリ1羽を記録しましたので報告します。

観察場所：江東区青海2丁目地先 中央防波堤新海面埋立地Cブロック

観察期間・発見者：2015年4月26日・佐藤松範氏、小笠剛裕氏、宮崎雅子氏、三間久豊氏

観察状況：雌の成鳥で、冬羽から夏羽へ換羽中の個体で、ムナグロ19羽の群れの中にいました。観察場所の埋立地ブロックは堤防に囲まれた閉鎖海面ですが、一部で建設残土等の土砂による埋め立てが行われています。オオチドリはその埋め立て土砂の上で、ムナグロとともに休息していたもので、採餌行動等は見られませんでした。

解説：東京都でのオオチドリの記録は、この埋立地近くの中央防波堤外側埋立地で2002年7月22日に雌成鳥1羽の記録がありますので、今回で2度目になります。

(野鳥記録委員 三間久豊)

東京都初記録 ハイイロオウチュウ *Dicrurus leucophaeus*

沖縄、九州など南日本で稀に記録されています。関東地方では神奈川県磯子区で1999年11月20日の記録がありますが、東京都では初記録となります。

観察場所：八王子市 片倉城趾公園

観察期間・発見者：2015年10月13日～14日・仁科研一氏

観察状況：10月13日の朝7:30頃、桜の木に止まる1羽の鳥を発見、尾羽の形からオウチュウ類と確信しました。この日は木の頂よりやや低い位置に止まり、枝をすり抜けるように飛び出して、獲物のミツバチやハナアブをフライキャッチしていました。9時頃にも他の方が目撃・撮影していますが、11時頃には見られなかったとのことでした。翌14日は7時頃に同じ場所で木の頂に止まり、周囲の林まで広範囲に飛び回っているのを観察しました。7:45頃に遠くへ飛び去ったのが最後となりました。

解説：本種は東アジアから南アジアにかけて広く生息し、多くの亜種が存在します。この個体は頭部の羽色の特徴により、中国東部の北京付近まで分布している亜種 *D. l. leucogenis* の成鳥と思われます。なお、本記録の取りまとめに際し、情報提供くださった村山和夫氏および発見者の方をご紹介くださった中村忠昌氏に感謝いたします。

(野鳥記録委員 大塚 豊)

稀な記録 ミヤマガラス *Corvus frugilegus*

会報4月号に掲載しましたように、東京都島嶼部の八丈島で2003年以降に断続的に記録されています。東京都本土部では足立区千住(1887年)の記録以来128年ぶりとなる記録と思われます。

観察場所：府中市 多磨霊園

観察期間・発見者：2015年11月29日・叶内拓哉氏

観察状況：11月29日の11時8分頃、ミヤマガラス6羽の群れが多磨霊園の上空を南から北に向かって渡って行くのを観察・撮影しました。

解説：近年は秋季から春季にかけての期間に関東地方の各県での観察記録が多くなっています。東京都本土部ではミヤマガラスの好む広大な農耕地環境が少ないため、本種の渡来が懸念されていましたが、今回ようやく本種を確認することができました。

(野鳥記録委員 叶内拓哉)